

## 1-2. 調査結果

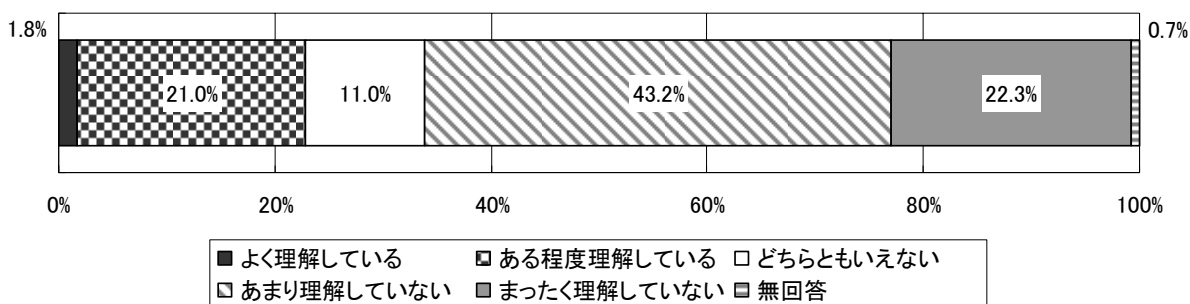
### (1) DPCの診断群分類についての理解度

#### ① 全体傾向

DPCの診断群分類については、「あまり理解していない」(43.2%)という回答割合が4割強を占める。「まったく理解していない」(22.3%)という回答割合も2割強あり、7割近くの職員がDPCの診断群分類について十分に理解していない。

医師と看護師を比較すると、医師の場合は、「よく理解している」(6.0%)と「ある程度理解している」(47.3%)をあわせ、5割以上が理解していると回答しており、比較的高い理解度を示している。

一方で、看護師の場合は、「あまり理解していない」(48.3%)、「まったく理解していない」(27.3%)という回答で8割近くを占めており、DPCの診断群分類に対する理解度は低い。職制との関係では有意であり、医師と看護師の間でDPCの診断群分類に対しては理解度に大きな差がある。(分割表分析係数=0.3983、P値<0.01)



		サンプル数	よく理解している	ある程度理解している	どちらともいえない	あまり理解していない	まったく理解していない	無回答
全体		29,173 100.0%	513 1.8%	6,129 21.0%	3,216 11.0%	12,605 43.2%	6,494 22.3%	216 0.7%
職性別	医師	6,855 100.0%	414 6.0%	3,243 47.3%	799 11.7%	1,907 27.8%	478 7.0%	14 0.2%
	看護師	21,600 100.0%	87 0.4%	2,756 12.8%	2,340 10.8%	10,439 48.3%	5,902 27.3%	76 0.4%
	無回答	718 100.0%	12 1.7%	130 18.1%	77 10.7%	259 36.1%	114 15.9%	126 17.5%

## (8) DPC導入後の医療内容の変化

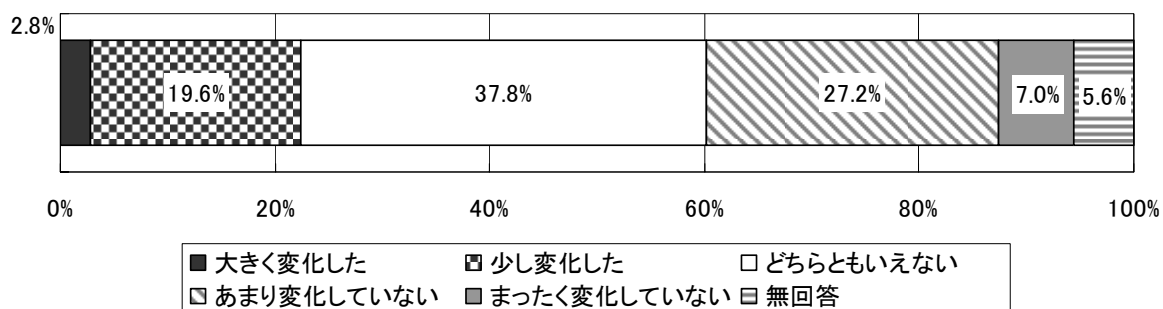
### ① 全体傾向

DPC導入後の医療内容の変化については、「どちらとも言えない」という回答が37.8%と最も多く、「あまり変化していない」(27.2%)、「少し変化した」(19.6%)の順に多い。

「大きく変化した」(2.8%)、「少し変化した」(19.6%)をあわせ約2割の職員が、DPC導入による医療内容の変化を感じている。

医師と看護師を比較すると、医師の方が看護師と比べると「大きく変化した」、「少し変化した」という回答割合が高いのに対し、看護師は「どちらとも言えない」という回答割合が非常に高い。職制との関係は有意であり、医師と看護師の間で差が見られる。

(分割表分析係数=0.2479、P値<0.01)



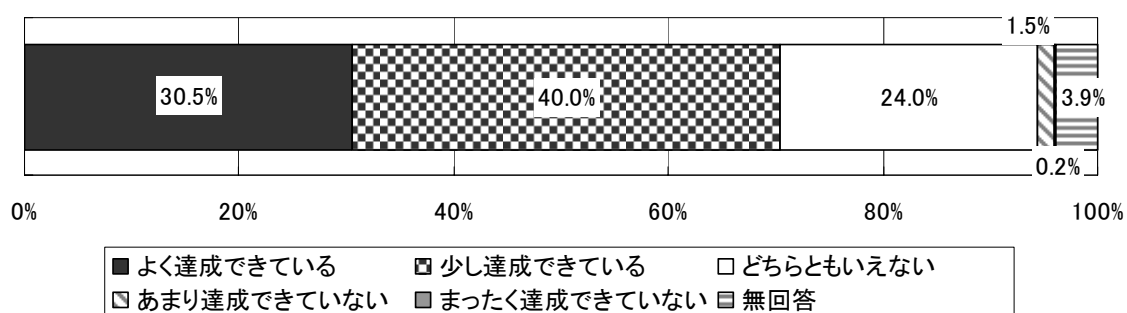
		サンプル数	大きく変化した	少し変化した	どちらとも言えない	あまり変化していない	まったく変化していない	無回答
全体		29,173	822	5,710	11,038	7,930	2,029	1,644
		100.0%	2.8%	19.6%	37.8%	27.2%	7.0%	5.6%
職性別	医師	6,855	302	1,845	1,270	2,343	869	226
		100.0%	4.4%	26.9%	18.5%	34.2%	12.7%	3.3%
	看護師	21,600	500	3,755	9,537	5,444	1,116	1,248
		100.0%	2.3%	17.4%	44.2%	25.2%	5.2%	5.8%
無回答		718	20	110	231	143	44	170
		100.0%	2.8%	15.3%	32.2%	19.9%	6.1%	23.7%

## (14)退院に当たっての入院目的の達成状況

### ① 全体傾向

入院目的の達成については、「少し達成できている」という回答が40.0%と最も多く、次いで「よく達成できている」(30.5%)、「どちらとも言えない」(24.0%)の順に多い。7割以上の職員が達成できていると回答しており、高い評価となっている。

医師と看護師を比較すると、医師の場合は「よく達成できている」という回答が5割以上で、非常に高い評価となっており、職制との関係は有意である。(分割表分析係数=0.2731、P値<0.01)



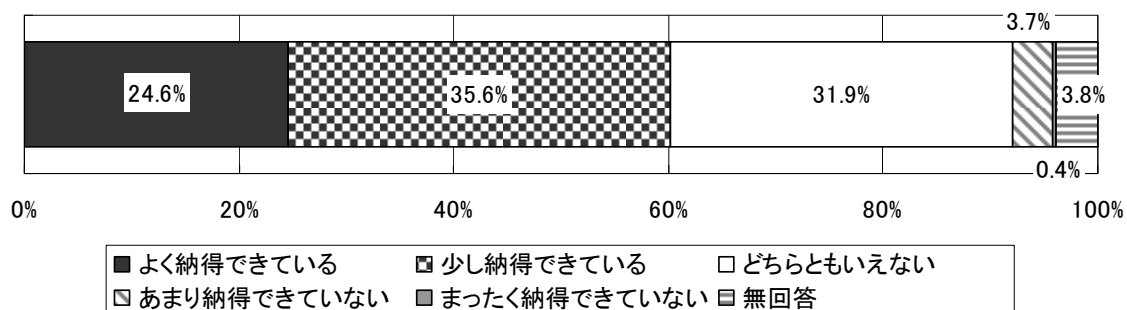
		サンプル数	よく達成できている	少し達成できている	どちらとも言えない	あまり達成できていない	まったく達成できていない	無回答
全体		29,173	8,893	11,655	6,988	447	55	1,135
		100.0%	30.5%	40.0%	24.0%	1.5%	0.2%	3.9%
職性別	医師	6,855	3,620	2,200	759	69	9	198
		100.0%	52.8%	32.1%	11.1%	1.0%	0.1%	2.9%
	看護師	21,600	5,130	9,209	6,090	360	45	766
		100.0%	23.8%	42.6%	28.2%	1.7%	0.2%	3.5%
	無回答	718	143	246	139	18	1	171
		100.0%	19.9%	34.3%	19.4%	2.5%	0.1%	23.8%

## (15)医療従事者としての退院に対する納得度

### ① 全体傾向

患者の退院については、「少し納得できている」という回答が 35.6%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」(31.9%)、「よく納得できている」(24.6%)の順に多い。約6割の職員は納得できている。

医師と看護師を比較すると、医師の場合は「よく納得できている」という回答割合が非常に高い。職制との関係は有意であり、相関が見られる。(分割表分析係数=0.2770、P値<0.01)

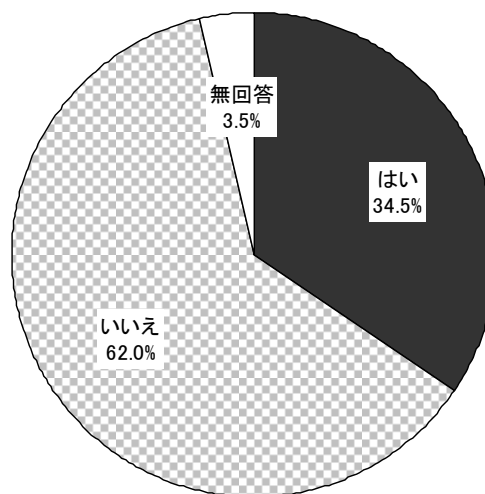


		サンプル数	よく納得できている	少し納得できている	どちらとも言えない	あまり納得できていない	まったく納得できていない	無回答
全体		29,173	7,178	10,380	9,316	1,071	110	1,118
		100.0%	24.6%	35.6%	31.9%	3.7%	0.4%	3.8%
職性別	医師	6,855	3,113	2,178	1,122	220	36	186
		100.0%	45.4%	31.8%	16.4%	3.2%	0.5%	2.7%
	看護師	21,600	3,939	7,990	8,005	827	70	769
	100.0%	18.2%	37.0%	37.1%	3.8%	0.3%	3.6%	
	無回答	718	126	212	189	24	4	163
	100.0%	17.5%	29.5%	26.3%	3.3%	0.6%	22.7%	

### (3) 入院医療費の算定方法が変わったことの認知状況(DPC 病院・試行的適用病院の患者のみ回答)

#### ① 全体傾向

入院医療費の算定方法が変わったことについては、「はい (知っていた)」という回答割合が 34.5%に対して、「いいえ (知らなかった)」という回答割合が 62.0%と高い。入院医療費の算定方法の変化については十分に認知されていないことがうかがわれる。



#### ② 属性によるクロス分析

##### ア. 性別

性別でみると、回答傾向に大きな差は見られない。

##### イ. 年代別

年代別でみると、年齢が上がるほど「はい (知っていた)」という回答割合が高くなる傾向が見られる。

##### ウ. 種別

DPC の導入状況でみると、回答傾向に大きな差は見られない。

##### エ. 設置主体別

設置主体別で見ると、公的病院で「はい (知っていた)」という回答割合が低いですが、その他については大きな差は見られない。

##### オ. 地域別

地域別でみると、北海道で「はい (知っていた)」という回答割合がやや高いが、回答傾向に大きな差は見られない。

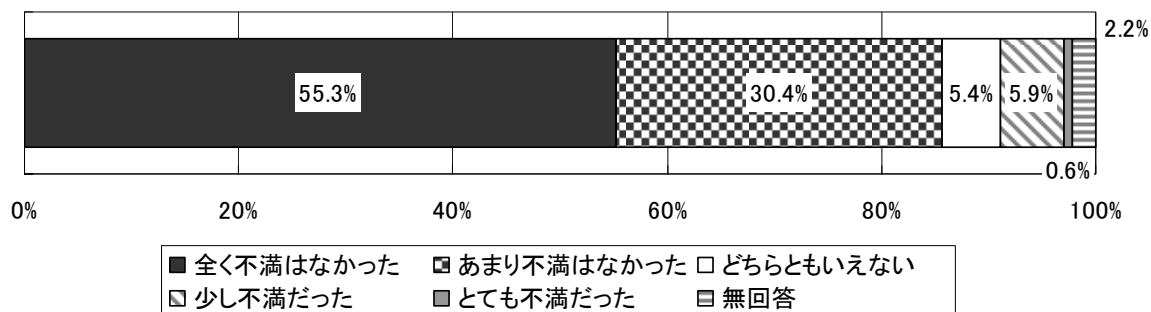
##### カ. 退院後の予定

退院後の予定との関連性をみると、回答傾向に大きな差は見られない。

## (5) 入院中の療養生活に対する支援への満足度

### ① 全体傾向

入院中に療養生活に対する支援については、「まったく不満はなかった」という回答割合が55.3%と半数以上であり、「あまり不満はなかった」(30.4%)という回答をあわせると、9割近くの患者は療養生活に対する支援に満足していると回答しており、ここでも高い評価となっている。



### ② 属性によるクロス分析

#### ア. 性別

性別でみると、回答傾向に大きな差は見られない。

#### イ. 年代別

年代別でみると、70歳代以上で「まったく不満はなかった」という回答割合が高いのに対し、10歳未満では「少し不満だった」という回答割合がやや高くなっているように、年代があがるほど満足度が高くなるという傾向が見られる。

#### ウ. 種別

DPCの導入状況でみると、試行的適用病院で「まったく不満はなかった」という回答割合がやや高くなっているが、回答傾向に大きな差は見られない。

#### エ. 設置主体別

設置主体別でみると、国立病院や社会保険病院で「まったく不満はなかった」という回答割合がやや高くなっているが、回答傾向に大きな差は見られない。

#### オ. 地域別

地域別でみると、東北で「まったく不満はなかった」という回答割合がやや低いものの、回答傾向に大きな差は見られない。

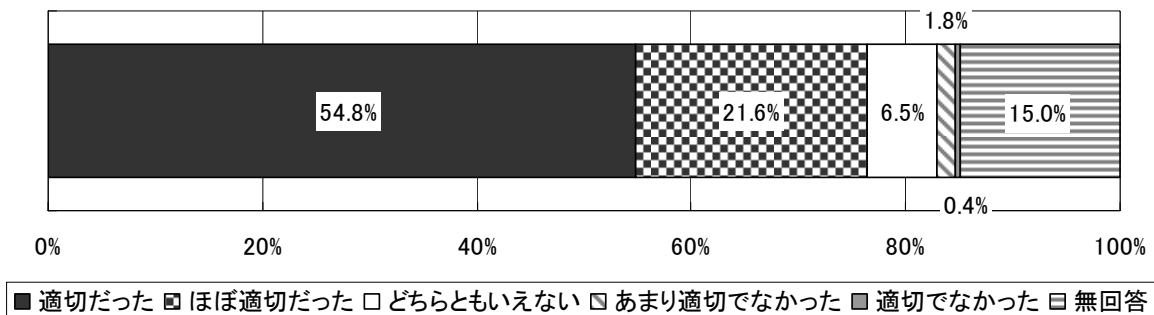
#### カ. 退院後の予定

退院後の予定との関連性をみると、自宅療養で「まったく不満はなかった」という回答割合がやや高くなっているが、回答傾向に大きな差は見られない。

## (8) 退院の時期についての評価

### ① 全体傾向

退院の時期については、「適切だった」(54.8%)と「ほぼ適切だった」(21.6%)をあわせると、8割近くの患者が適切であると回答しており、高く評価している。



### ② 属性によるクロス分析

#### ア. 性別

性別でみると、回答傾向に大きな差は見られない。

#### イ. 年代別

年代別でみると、20歳代、30歳代で「適切だった」という回答割合がやや高いのに対し、60歳代や80歳代以上の回答割合がやや低いが、これらの年代では無回答の割合が高くなっており、回答傾向に大きな差は見られない。

#### ウ. 種別

DPCの導入状況でみると、回答傾向に大きな差は見られない。

#### エ. 設置主体別

設置主体別でみると、国立病院で「適切だった」という回答割合が高くなっているが、回答傾向に大きな差は見られない。

#### オ. 地域別

地域別でみると、東北で「適切だった」という回答割合がやや低く、「ほぼ適切だった」という回答割合がやや高くなっているが、回答傾向に大きな差は見られない。

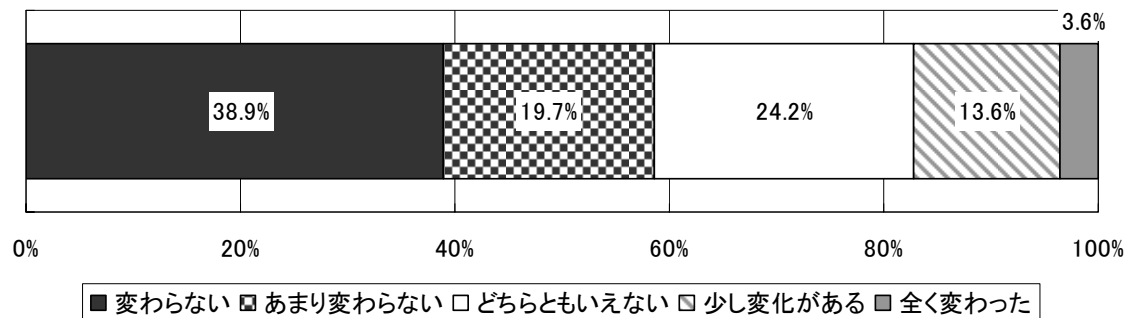
#### カ. 退院後の予定

退院後の予定との関連性をみると、他病院へ転院という患者で「適切だった」という回答割合が低く、「どちらとも言えない」、「あまり適切でなかった」という回答割合がやや高い。

## (9) DPC導入後の医療内容や入院期間の変化（1年以上前に入院経験のある患者のみ回答）

### ① 全体傾向

DPC導入後の医療内容や入院期間については、「変わらない」という回答が38.9%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」（24.2%）、「あまり変わらない」（19.7%）の順となっており、8割以上の患者はDPC導入による医療内容等の変化を感じていない。



### ② 属性によるクロス分析

#### ア. 性別

性別でみると、回答傾向に大きな差は見られない。

#### イ. 年代別

年代別でみると、70歳代、80歳代で「変わらない」という回答割合が高いのに対し、50歳代、60歳代で「少し変化がある」という回答割合が高く、年代との間に弱い相関が見られる。

#### ウ. 種別

DPCの導入状況でみると、調査協力病院で「変わらない」、「少し変化がある」という回答割合が高いのに対し、DPC病院および試行的適用病院では「どちらとも言えない」という回答割合が高い。DPC病院および試行的適用病院と、調査協力病院の間での回答傾向に違いが見られ、DPCの導入状況と医療内容等の変化に対する認識の間には相関が見られる。

（分割表分析係数=0.2240、P値<0.01）

#### エ. 設置主体別

設置主体別でみると、公的病院で「変わらない」、「少し変化がある」という回答割合が高く、国立病院では「少し変化がある」という回答割合が高くなっている。設置主体と医療内容等の変化に対する認識の間には弱い相関が見られる。

#### オ. 地域別

地域別でみると、関西で「変わらない」という回答割合がやや高く、東北、中国・